

神の恵みを軽んじて

創世記二五章19〜34節

彼は誓って、長子の権利をヤコブに売り渡した。ヤコブがエサウにパンとレンズ豆の煮物を出したので、彼は食べて飲み、そして立ち去って行った。エサウは長子の権利を軽んじた。(33、34)

イサクに生まれたエサウとヤコブの双子は、あらゆる面で正反対の兄弟でした。その二人について、主は「兄は弟に仕える」(23)と預言されました。そのことに重要な出来事が起こります。狩りから帰って来たエサウはヤコブが作っていた煮物を欲して、大切な長子の権利を引き換えに売り渡してしまいました。アブラハム家の長子の特権とは、神の祝福を受け継ぐ権利であり、神の国を相続する権利を意味していました。エサウはそれを軽んじたのです。一方のヤコブは、多くの人間的な問題を抱えながらも神の祝福を熱心に求めたのです。私たちはくれぐれも神の国を受け継ぐことにおいては、淡泊でありませんように。現在の欲望を満たすことのために、永遠につながる祝福の権利を捨ててしまうことがあります。神の恵みを求めることにおいては、貪欲になろうではありませんか。